

# C-up ワールド

## 2004年2月号

### 2003年12月の山行記録

#### 自主山行

南アルプス・池山吊尾根から北岳往復

2003年12月29日(夜発)~12月31日

#### 参加者

松本 善行(L)・矢田 実 (同人)

計2名

#### コース・行程の概略

##### ■行動概略

12/30

夜叉神峠登山口(7:50発)→鷲ノ住山入口→  
野呂川発電所吊橋→あるき沢橋登山口→  
池山御池小屋(13:30着)

12/31

池山御池小屋(4:50発)→ポーゴン沢ノ頭→  
八本歯ノ頭手前小ピーク(2800m付近)→(撤退)  
→池山御池小屋(10:30着)→  
休憩後撤収(13:00発)→あるき沢橋登山口→  
野呂川発電所吊橋→鷲ノ住山入口→  
夜叉神峠登山口 17:30着

##### ■当初の予定

12/30: 夜叉神峠登山口→

池山御池小屋(テント泊)

12/31: 池山御池小屋→ポーゴン沢ノ頭→

八本歯のCOL→北岳(ピストン)

1/1: 池山御池小屋→夜叉神峠

1/2: (予備日)

#### コースの核心ポイント

八本歯のCOLの通過 稜線上の強風対策  
降雪及び凍結時の鷲ノ住山からの岩場の下り(スー  
パー林道側)

※コース上で整備状況が悪かった場所

野呂川発電所吊橋からの県道への登り口(崩壊が激  
しい)

#### 報告者の感想

各駅停車を乗り継ぎ、29日11時過ぎに甲府着。  
ビジネスホテルに泊まり、翌朝クシーで夜叉神峠  
登山口に入る。静かな朝を想像していたが、到着す  
りなり山梨県警のおまわりさんと芦安消防団の皆さ  
んに取り囲まれてしまった。早朝からの登山指導ご  
苦労様です。ワカン・ザイル・スコップ・ビーコ  
ン・無線・赤布・旗竿など、こちらの装備は万全。  
恐れる事はない。行き先を知らせ、計画書を提出。  
「今日はたくさん入山しているよ!21人」との事。  
今夜のテント場はにぎやかかも知れない。

天気は晴。気温マイナス0~5℃程度、この時期こ  
しては温かく雪は殆どない。朝食を済ませ、スーパ  
ー林道を鷲ノ住山入口へ。軽い登りで1534mピー  
クを過ぎ、野呂川へ急下降、つり橋を渡り野呂川県  
道へ。県道への登りは崩壊が激しく、立ち木との間  
をロープを使いながら進む。大きな荷物が邪魔にな  
り苦戦!

ここで、先行のパーティを抜き、あるき沢橋登山口  
から義盛新道へ。登山道は、ところどころ崩壊場所  
が有り気が抜けない。うんざりする急な登りの末、  
予定どおり池山御池小屋着。風も弱く快適なテント  
場だったが、今年はきれいな雪が少なく、水作りに  
苦労した。登頂を終えたパーティが下山して来る。  
天候は良かったが、風が強く登頂は出来なかったと  
の事。明日は天気の崩れが予想されるので、厳しく  
なりそうだ。天候がもつことを期待して、夕食後  
早々に就寝。夜半より徐々に風が強くなる。

31日3時に起床、ヘッドランプを頼りに出発。急  
な登りを終え、池山吊尾根に取り付く。ここでアイ  
ゼンとハーネスを装着。このころから徐々に風雪が

強くなる。日の出！尾根を越え、雲が激しく動く。大荒れの天候。黙々と尾根を進み、森林限界を越えポーコン沢ノ頭に到着、北岳は残念ながら見えない。広い尾根は、悪天時には迷いやすいので、下降点を確認。なだらかな稜線を進み八本歯ノ頭手前小ピーク(2800m付近)で、今後の行動を検討。状況は①予報通り、天候の回復は翌日まで無理・②風は強く時々体をもって行かれる状態・③視界は40~50m程度。何とか行ける状況だが、ピストンの場合は縦走と違い戻らねばならない。天候が悪化した場合、3000mの稜線上でピークの可能性も考えられる。残念だが引き返すこととする。池山御池小屋 10:30戻り。

食料に余裕があるので、天候の回復を待ち明日再チャレンジ。今日はそのまま泊まり明日ゆっくり下山。即撤収などなど、今後の展開を検討。モチベーションも下がったのと、松本氏の強い要望もあり撤収を決定。唯一の心配は下山が18時ごろになるため、路面が凍結するとタクシーが来ない。その場合は、夜叉神峠登山口でテント泊となる。

13:00 出発。苦労した登りを一気に下降。気温が高く、雪が団子状態になり、たびたびスリップ。あるき沢橋登山口ではついに雨になってしまった。まるで春山だ。県道より吊橋へ下降。全体が脆く危険。行きと同様大苦戦！！さらに苦しい鷲ノ住山の登り返し。年末のトレーニング不足がたり、バテバテで足が前に出ない。徐々に松本氏から遅れだす小生もつれる足、思わず立木にやつあたり。「コメツガさん」ごめんなさい。大いに反省！とどめは下りの岩場。降雪時にかなり危険。事故が多いのも納得できる。

ようやくスーパー林道へ到着。すでに日は暮れている。もう登りはないと思ったが、この林道結構起伏があり、うんざり。夜叉神トンネルを越えやっとゴールイン。人の気配はなく寒い。頼みの芦安タクシーに連絡。「大丈夫です！！」との受付の明るい返事に安堵。甲府で残念会。波乱の2003年が幕を閉じた。次回は白根三山縦走で再チャレンジか・・・

報告者 矢田 実



### 自主山行 南アルプス・仙丈岳東尾根 12/29~12/31

#### 参加者

金沢・坂口・横川・山野(A)・山野(M)・伊藤田口・福田

計8名

#### コース・行程の概略

- 29日 戸台駐車場〜北沢峠〜東尾根取り付き：C1
- 30日 C1〜東尾根2700m付近または仙丈岳を越え小仙丈付近：C2
- 31日 C2〜北沢峠〜戸台
- 1日 予備日

#### 報告者の感想

「あきらめるな、足を出せ、止まるな」呪文のように繰り返して自分に言い聞かせ、とにかく足をだす。雪は少なく柔らかい。みんなの歩いた跡は、白い雪面に緑の這松が一本のラインとなって伸びている。上を見ると今まで見えていた足や背中が見えないが、みんなが待っている様子が伺える。心の中で「あそこが2700m付近だ。今日のテン場のあそこまで行けば・・・」やっと追いついた時に見たものは、傾斜は緩んではいるものとてもじゃないがテントが張れるスペースとは云えない。積雪量の少なさとパーティの人数がここでの幕営は無理と判断できる。時刻は2時半を廻っている、このまま進めば稜線に出て小仙丈近くまで行かなければ、おそらくテントを張れる所は無いだらう。

足をひっぱっている私のスピードでは稜線からのヘッドランプ使用は避けられない。戻りにしても高度100m以上は下らなければテントを張れるような所は無かったはずだ。

「福田さん、後どのくらい歩ける？」リーダーの落ち付いた問いかけでみんなの目が一斉にこちらを向いた。

幸い天候は安定している。せっかく登った分を下降するなんて・・・腹をくくって(あきらめて?)答えるしかなかった。「早くは登れないけど後3時間

は大丈夫だと思います」と。

その後に出てきた岩稜のヤセ尾根は今回のルートの中での核心だったかもしれない。右は小仙丈カール左は大仙丈のカールと巨大な二つのロートの淵に這つぱりとにかく前に進むことしか頭にはなかった。小岩峰の下りではロープが出た。疲労によるミスを防ぐ為にもありがたい。見た目それほど難しくは思わなかったが懸垂で降り始めるとその足場がガラガラと崩れる。岩が脆い。

しかし悪場を越えたその先に救いが「テン場見付けたよー」の喜びの声があがった。

2950m付近、小仙丈カール側に一段下がったそこは、尾根が少しだけ張りだして、稜線からの強風も避けられ、床面は整地したかのように平らで、私達の二つのテントを張るのに十分な広さを持つ棚だった。

「今日はもう歩かなくてイインダ!!!」テントの設営という作業を機械的にこなしながら私の頭の中はその思いでいっぱいになっていた。

今回の山行での私の反省点は「荷物の軽量化」甘かったマダマダ軽くする事が出来たはず。「アイゼン等の調整」山行前にもう一度きっちり調整すべきでした。「早さ、体力、スタミナ」等通常の山行での甘い歩きが癖になっていたかも。短時間のゆっくり歩きを続けていると身体がそれに慣れてしまいその行動時間スピードを超えたとき辛くなる。歩き込みがたりなかった。この場を借りてお詫びします「パーティーの皆さん、ゴメンナサイ」

報告者 福田 洋子



## 2004年1月の山行記録

### 講習山行

宮城蔵王えぼしスキー

1月24日～25日

#### 参加者

末木俊之・南谷やすえ・斎藤典子・伊藤栄子  
(本科)

秋山峯子(シニア)

阿倍富子・鈴木千穂(遠足)

伊藤幸雄(研修)

工藤寿人(講師)

計9名

#### コース(ゲレンデ)

24日えぼしスキー場で基礎練習

25日えぼしスキー場リフト終点から

後烏帽子岳往復

#### 報告者の感想

東北、えぼしスキー場に24～25日で行ってきました。スキー場の広さは川場よりやや広く、長さもあり中級、初級者用に向いているスキー場と思いました。また、ゴンドラやリフトを7～8分も並ぶこともありませんでしたが地元の人に言わせると、「今日は混んでいる」と申しておりました。

注目の雪質は粉雪状で非常に軽い感じ。

また、泊まったペンションはスペイン風料理で量もありなかなかの雰囲気、女性に受ける感じです。全員でワインを飲みながら工藤節を聞いてしまいました。

(8時間リフト付一泊8800円)

さてスキーツアー日は地元の人にも年に一度あるか無いかと言うほどの絶好の快晴でスキー日和。頭を上げれば白く輝く山々がはっきり見え、ひときは目立つ蔵王の姿は雄大で心躍るものがありました。

スキー場の最終リフトから後烏帽子山頂に向け

9:00 出発。前日の降雪でラッセル状態でしたが、地元のスキーヤーに大分助けてもらい2時間かけて山頂に到着。

全員で記念撮影をしている間に天候も崩れはじめ早速、滑降!

うーん、ふあふあの深雪、滑ると膝まで入り、回転すると舞う粉雪が胸にかかる!!

これ、最高!!

山スキーはこれがあるから止められない。

帰りは遠刈田温泉の公衆浴場250円(石鹸なし)で汗を流し、白石蔵王駅で立ち食いの温麺を食べて17:46の新幹線で帰路。

報告者 伊藤 幸男



## 自主山行

### マスターステップ

### アイスクライミング・乙女の沢 (ハケ岳)

1月31日

#### 参加者

伊藤幸雄(SL)、横川秀樹(L)

計2名

#### コース(時刻は当初の予定)

西沢溪谷駐車場 5:30~乙女の沢出合 8:30/9:00~

80m大滝上 13:00~乙女の沢出合 14:30~

西沢溪谷駐車

#### 報告

西沢溪谷の駐車場に朝5時過ぎに着く。朝飯のパンを食べ、準備を済ませて6時ちょうどに出発。30分ほど歩いて吊り橋を渡ったぐらいでようやく明るくなってきた。清兵衛沢を7時20分に通過。眼下に見えるF1(30m)が面白そうだが、きょうの目的地は乙女の沢なので、先を急ぐ。

山ノ神を8時5分に過ぎ、そこから30分で乙女の沢に到着。出合にかかる滝(50m)が見事に氷結

している。ギアを身に付けロープを結ぶ。スケールの大きな滝が多いので、きょうは8.5mm×50mをダブルで使用。そして、アックスは伊藤さんがシャルレのクオークを2本。私は左手にクオーク、右手には今回初めて使用するブラックダイヤモンドのフュージョンを持つ。

登り始めてみると、ところどころ氷から水が垂れてきている。よく見ると、ほぼ全面が水氷という感じだ。エバードライとは言え、なるべくロープを濡らさないようルート取りに気を使う。一本目のプロテクションは、念のため、下のほうで取り、二本目からは状況に応じて5~10m間隔で取る。途中、テンションで休んだりしながら、何とか50mを登って、アイススクリュウ3本でピラーポイントを構築。続いて伊藤さんが登ってきて、とりあえず最初の滝を終えた。しかし、ここで早くもふくらはぎが疲れていることに気が付いた。まだ先が長いのに・・・と、ちょっと不安を感じる。

ここからしばらくは歩き。緩斜面の氷上ではフラットフットイングとフロントポイントイングを適度に組み合わせて進んでいく。20~30分ほどで80m大滝下に着いた。

この大滝は下から見上げると、傾斜はそれほどでもないが距離は長い。とりあえず滝をバックに記念撮影をしてから登り始める。まずは私がリードし、一旦ピッチを切って、次は伊藤さんがリード。これで大テラスに出た。それにしても、ここから上もかなりの長さだ。(あとで分かったが、この大テラスから上が80m大滝だった。下の段は、別の40m滝だったようだ)

気合を入れなおして、再度私がリードするが半分も行かないうちに完全にパテてしまい、残りをパートナーに託す。50代とは思えないパワーでグイグイと登る伊藤さんに助けられ、結局、二人が大滝上に着いたのは14時45分だった。

ちょっと休んで下降開始。巻き道があるとのことだがどこだか分からないので、右岸のルンゼを少し登り、藪気味のところを懸垂で降りることにする。しかし、下降中にロープが絡まって、ここで1時間近くをロスする。藪の中の懸垂では、新保講師に教えてもらった左右の腰にそれぞれのロープをぶら下げる方式がベストなようだ。これは、準備に多少時間がかかるが、それを面倒がると、もっと時間を無駄にすることを身をもって体験した。

5～6回の懸垂下降と歩きを交え、出合の滝上に着いたのは18時前。あたりは真っ暗となっていた。この滝さえ下降すれば、とりあえずは一段落だが適当な灌木やボルトがなく、しかも、日中の陽気のせいで氷の上をかなりの水が流れている。一体どうやって降りようか・・・と、途方に暮れそうになったが、先行の3人パーティーが使ったVスレッドを発見。彼らは直前に降りているので、信頼性はOKと判断する。残置リングをそのまま借りて、初体験のVスレッドによる懸垂下降。これでようやく出合に戻る事ができた。

カラカラに渴いた喉を潤し、18時半に帰途に着く。駐車場に戻ったのは21時10分だった。

今回の反省点は、①ふくらはぎの消耗が激しく、それによる登りのスピードダウン。②下降での時間のロス、この2点が挙げられる。次回、再チャレンジするときには、もう少しスピードアップを目指したい。

報告者 横川 秀樹

△△△△△△△△△△△△△△△△

## 編集局から

1 2月末の南アルプス自主と1月の記録で紙面がいっぱいになりました。2月の山行記録もすでにくつかいいただいておりますが、3月号に回しました。

自分も去年、雪の千丈岳山行に参加しましたが、やはり小千丈岳付近で撤退でした。千丈岳も結構深い山ですね。行けそうでなかなか行けません。

さて、次号は自分が編集するシーアップワールドの最後になります。すでにページ数は多くなる様子ですが、自主山行の原稿等多数いただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

## アドレス

無名山塾

<http://www.sanj.c.com>

Phone 03-3941-3481

Fax 03-3941-3482